



多くの人が サンゴと海に 関心を寄せてほしい

ジーエルイー合同会社
呉屋由希乃氏



——「サンゴに優しい日焼け止め」の商品開発に取り組むことになったきっかけを教えてください。

沖縄のビーチにシュノーケリングに行った際に、日焼け止めを塗って海に入ろうとしたら、ダイバーさんから「サンゴが死んじゃうよ～」と言われて驚きました。その言葉の背景を調べてみると、英語ではサンゴに対する日焼け止めの影響について日本語の何倍もの情報があり、既にハワイでは条例化の動きがあることもわかりました。でも、日本で話題にのぼらないのはなぜか？知らないから？環境に負荷の少ない日焼け止めという商品はあっても高すぎるから？このような商品の販売には説明の手間がかかりすぎるから？でも私は目の前で海が汚れていくのを見たくありませんでした。待っていても誰も取り組まないのであれば自分で行動して、サンゴに優しい日焼け止めを作ろうと思ったことから始めました。



サンゴに有害な成分を一切含まない、耐水・高保湿・100%自然成分の日焼け止め

——商品を製造販売するための資金集めは、どのように始められましたか。

クラウドファンディングの手法を使いネットで発信しながら、自分でたくさんの人に直接会ってお願いしました。身近な人から話を始めましたが、約9割の人は無関心で、本当のこと？と信憑性を疑うような反応もありました。沖縄を始め東京などいろいろな場に出かけ、粘り強く話を続けた結果、250人の賛同者を得て当初の目標資金を獲得できました。賛同してくれたほとんどの人が顔見知り、私がお話した人ばかりでした。

昨年、商品化した日焼け止めは、海に入る時に使ってほしいサイズとして、全身に塗る場合は2回分、顔や手などの部分使用では7回分を想定し、1人2泊3日の滞在中の使い切りサイズとして15グラムで販売を始めました。沖縄に旅行に来た時に、日焼け止めの成分がサンゴに影響があることを知って、「サンゴに優しい日焼け止め」を使ってほしい。観光に来て楽しい気分の時に、厳しい現実をつきつけるようなことを言うことへの葛藤もありましたが、私達は海と一緒に生活している。この自然を守ろうと、声をあげ続けています。

——サンゴにやさしい日焼け止めが目指すのはどんな将来像ですか。

今年、普段使いができる50mlのポンプタイプと7グラムサイズの2種類を

タイで生産開始しました。7グラムサイズはツアー会社やホテル等が商品の意義を理解し協力を申し出てくれて、観光客向けにサンゴを守る活動の啓発ツールとして配布しています。沖縄でのエコツアーで自然の素晴らしさを学ぶ際に、この日焼け止めを紹介することで、海に入る時はサンゴに配慮する行動を伝えたい。ツアー会社やホテルで働く人達もこの商品を紹介することで、観光客に自然を守る意識を伝えやすくなっています。

サンゴは世界中の海にあり、同じように日焼け止めの影響を受けています。沖縄に来てからこの事実を知っても遅いかもしれない。沖縄からの発信に加えて、商品の生産国であるタイで販売の準備を進めています。世界のリゾート地を回る人にサンゴを守る活動を伝えて行きたいと思っています。これからも多くの場でサンゴの話題を出してサンゴへの関心を高めることで、サンゴ保全の活動を盛り上げていきたいですね。

[聞き手：つな環編集部]

呉屋 由希乃 (ごやゆきの)

沖縄市出身。大学休学中に東京で起業したイベント業が軌道に乗り琉球大学を中退。ニューヨーク移住を経て沖縄に戻りアパレルショップを開業。海で使用していた日焼け止めに注意されたことを契機に観光と環境の問題に取り組むべく8年間経営した店舗を売却。2017年、サンゴに優しい日焼け止めの販売を開始。サンゴの美しい慶良間諸島や沖縄離島を中心に商品の認知度アップとサンゴの保全活動に努めている。